

# 川俣正

# 北海道インプログレス

# TADASHI KAWAMATA HOKKAIDO IN PROGRESS

現在の「北海道」について考えます。  
北海道をめぐるコンセプトメイキングプロジェクト、始動。

2011年1月22日(土)

第1部 13:30-15:00

[レクチャー] 北海道から世界へ

●講師: 川俣正氏(アーティスト)

第2部 15:00-16:30

[シンポジウム] 北海道インプログレスを考える

●パネリスト: 川俣正氏(アーティスト)、三橋純子氏(北海道教育大学准教授)、菊地拓児氏(コールマイン研究室室長)  
●進行: 佐藤友哉(北海道立近代美術館学芸副館長)

自由参加制  
聴講無料  
(240名)

2011年1月23日(日) 10:00-16:00

北海道インプログレスのためのワークショップ

●講師: 川俣正氏(アーティスト)

お申込は、メールにて、「川俣ワークショップ参加希望」と件名に入力して、お名前を明記して送信ください。

kinbi.gakugei1@pref.hokkaido.lg.jp

お送りいただいたアドレスに受付整理番号をお伝えします。

往復ハガキでも受け付けます。

〒060-0001 札幌市中央区北1条西17丁目 北海道立近代美術館「川俣正北海道インプログレス」係  
定員になり次第締め切らせていただきます。

募集制  
200名  
(先着順)

## 北海道立近代美術館 講堂

- 主催: 北海道立近代美術館、北海道教育大学岩見沢校、「川俣正 北海道インプログレス」実行委員会
- 後援: 北海道文化財団、北海道芸術学会
- 協力: 三笠市、三笠市教育委員会、コールマイン研究室、NPO炭鉱(やま)の記憶推進事業団、室蘭市教育委員会、室蘭工業大学建築計画研究室

## 北海道で現代アートプロジェクトを考える

川俣 正

現代アートのプロジェクトとは、美術館やギャラリー内での展示ではなく、屋外でその地域の人たちとともにアート作品を組み立てていくことです。そしてその制作プロセスも同時に体験してもらおうとするものです。それをこれから、北海道のいくつかの地域で行っていかうと思っています。

その手始めとして、今回、北海道立近代美術館で、アートプロジェクトを考えるトークとワークショップを行います。参加者全員がブレインストーミング(フリートーク)のような形で、思い思いにアートプロジェクトを提案し、みんなでディスカッションしていきます。そこから将来的に現実可能なアートプロジェクトを探し出し、最終的にそのための実際的な活動の基本方針を決めます。少しずつ、いろいろな人たちのアイデアを盛り込みながら、一つの活動に集約させていく「イン・プログレス」の手法を使って、北海道で将来的に現代アートのプロジェクトを展開していく。もちろん一人で出来ることではないので、今回の参加者が北海道のいろいろな人たちのネットワークを紡ぎながら今後、不規則的にいろいろなことをいろいろなところで、起こしていくことになれば良いと思います。1983年に札幌の住宅地で行った「テトラハウス・326プロジェクト」を思い出しながら、二十数年ぶりに北海道の地でアートプロジェクトを行うことが可能かを、今回のトークとワークショップで探りたいと思っています。

### ★テトラハウス・326プロジェクト (PROJECT "TETRA HOUSE N-3 W-26", SAPPORO 1983)

1983年8月、川俣正が札幌市中央区北3条西26丁目で行ったアートプロジェクト。一般の住宅1件を1ヶ月間の期限付きで借り受け、そこに廃材を建物の内外に張り巡らし、その後撤収し、もとの住宅に戻した。その全プロセスをアートプロジェクトとして位置付けた。屋外の一般住宅街で行うアートイベントの先駆けとなった。

### パネリスト



### 川俣 正

Tadashi Kawamata 1月22日レクチャー、シンポジウム、1月23日ワークショップ講師

#### アーティスト

北海道三笠市出身。1953年生まれ。28歳でヴェネツィア・ビエンナーレの参加アーティストに選ばれ、その後もドクメンタなど、世界的に高い評価を獲得し続け、2005年には、横浜トリエンナーレの総合ディレクターを務める。また、東京藝術大学が革新的な試みとして設置した「先端芸術表現科」の立ち上げに主任教授として着任。既存の美術表現の枠組みを超えていく試みを実践してきた。現在はフランス、パリ国立高等芸術学院の教授。建築や都市計画、歴史学や社会学、日常のコミュニケーション、あるいは医療にまで及ぶ分野とかわかり、海外でもっともよく知られている日本人アーティストのひとり。

1984年東京藝術大学博士課程満期退学。1977年より発表活動をはじめ、第40回ヴェネツィア・ビエンナーレ(1982)、ドクメンタ8(1987)、第19回サンパウロ国際ビエンナーレ(1987)、ドクメンタ9(1992)、第2回リヨン現代美術ビエンナーレ(1993)、第3回ミュンスター彫刻プロジェクト(1997)、第11回シドニー・ビエンナーレ(1998)、越後妻有アートトリエンナーレ(2000～)、第4回上海ビエンナーレ(2002)、釜山ビエンナーレ(2002)、ヴァレンシア・ビエンナーレ(2003)など国内外で多数のプロジェクトや展覧会に参加・発表を行う。



### 三橋 純子

Sumiyo Mitsuhashi 1月22日シンポジウムパネリスト

#### 北海道教育大学准教授

東京都出身。北海道岩見沢市在住。2006年より北海道教育大学岩見沢校芸術課程芸術文化コースにて現職。アートマネージメント、美術史・美術理論を教えている。1990年東京都写真美術館に準備室から入り、学芸員として展覧会企画、ワークショップ、ボランティア育成、作品収集などをおこなう。江戸東京博物館勤務を経て、2004年から東京都現代美術館にて主に企画展を担当。現在は北海道立近代美術館や北海道文化財団等と相互協力協定を結び、連携授業の他、企画展の実施やアートプロデューサー養成講座を共催。岩見沢市、三笠市モダンアート・ミュージアム、室蘭市民美術館などとも展覧会やアートプロジェクトを進め、地域や市民が関わる芸術のあり方を実践的に研究している。また写真の古典技法など様々なワークショップやセミナーも各地の美術館等で多数開催。



### 菊地 拓児

Takuji Kikuchi 1月22日シンポジウムパネリスト

#### クリエイター / コールマイン研究室 室長

北海道札幌市出身。東京藝術大学美術研究科大学院先端芸術表現専攻修了。北海道の旧産炭地・鉱山跡をテーマとした創作を行う。90年代に北海道の炭鉱遺産の保存・活用を訴えた写真家集団「グループ炭坑夫」に参加、以後現在まで道内の炭鉱・鉱山跡を調査、研究する。「コールマイン研究室」は、人々の記憶から失われつつある炭鉱の文化・歴史・現状を見つめ、調査し、産業遺産としての価値や発信も含めて議論し行動につなげていくことを目的とする。ホームページ[tk-art.net]に、コールマイン関係の写真作品他を公開している。